

まち地域づくりファイル

大崎市流地域自治組織による、地域や地区の特性を生かした個性あふれる地域づくりを紹介しします。

7 鹿島台地域 鹿島台まちづくり協議会

しあわせが見える地域をめざして ～つなぐ・ささえる・はぐくむ～

話し合いから始まったまちづくり

鹿島台地域では、「南の玄関 にぎわいのまちづくり」を重点的に進めようと、まちづくり協議会を中心に地域ぐるみで活動しています。市の合併以来、さまざまな取り組みを行う際は、話し合いを大切に地域住民の声を生かせるまちづくりを一貫して実践してきました。その結果として住民参画が多くなり、より一層地域の一体感が醸成されています。



▲旧鹿島台第2小学校の利活用についてのワークショップの様子。

まちづくり協議会の発足時には、地域課題は何か、解決するにはどうしたらいいか、自分たちには何ができるのかを悩み、模索しました。他の地域で行っている話し合い(ワークショップ)の場を視察したことがきっかけとなり、地域でできることは地域で行うことを基本的な考え方としながら、話し合いを軸に、地域課題を解決しています。

歴史・伝統の継承と新たなにぎわいの創出

まちづくり協議会では、「かしまだい地域みんなのカレンダー」や「ご長寿者名簿」を毎年作成しています。住民要望から生まれた、地域が見える情報共有のツールとして親しまれています。

また、鎌田三之助翁の功績を継承するため、「三之助翁かるた」を作成し、鹿島台小学校の4年生に毎年配布するほか、かるた大会や鎌田三之助クイズを開催して後世に伝える事業を行っています。

鹿島台駅前西口交流広場では、にぎわいづくりと産業の活性化のため、平成29年から「モーニングマーケット」を開催しています。伝統ある「鹿島台互

市」とは趣向を変え、洋風でおしゃれな工夫を凝らしたマーケットが行われています。4月から10月まで毎月1回開催しており、地域内外から多くの来客でにぎわいをみせています。今夏には、5年前に開発したトマト発泡酒をリニューアルして、地域の皆さんにお披露目する予定です。



▲地元の小学生や中学生などが考えたイラストが描かれた三之助翁かるた

これらの取り組みは、三之助翁の「維勤維俵」(何事も工夫して物を生かし仕事に励み努めよ)の教えに通じるところがあります。

希望の持てるまちづくりを目指して

地域づくりの担い手を育み、これまでの活動の蓄積を将来にわたって引き継いでいくことが大きな課題となっています。



▲地域を元気にするモーニングマーケット。

昨年、まちづくりの地域計画書を策定し、各行政区長、各種団体が連携し、相互協力のもとに5つの委員会が活動を展開しています。まちづくり協議会が全体調整を図り、委員会が福祉、安全、産業、コミュニティ、生涯学習などそれぞれの分野での、地域住民の暮らしをめぐる課題を解決しています。

まちづくり協議会の高橋亨会長は「鹿島台に住んでみたい、住んで良かったと感じ、希望の持てるまちづくりを展開していきたい」と話してくれました。



古川エヌ・デー・ケー

わがまち 企業訪問 vol.8

市内の企業では、どのような製品が生産され、どのような人が働いているか。優れたモノづくりと技術者を紹介します。

通信を支える水晶デバイス 水晶の特性をモノづくりに落とし込む

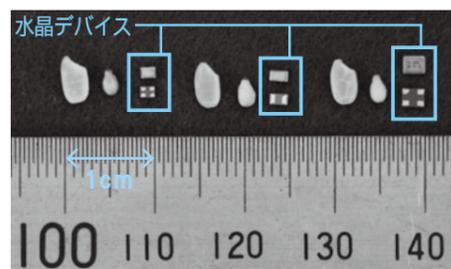
携帯電話やスマートフォン、テレビやパソコンなど、わたしたちの生活に欠かせないあらゆる電子機器に、水晶デバイスという電子部品が使われています。

水晶は、その透明で美しい輝きから、古代から宝石や装飾品として扱われてきました。見た目の美しさに限らず、水晶には、規則正しいリズム(周波数)を自ら発振させる特徴があります。この特徴が基準信号となり、電子機器の送り手と受け手の間で、正確な電波がやり取りされています。

例えば、携帯電話や無線LANは、遠くのアンテナなどと通信ができることで、さまざまなサービスが充実しました。通信は、互いの機器の周波数のタイミングがそろい続けなければ行うことができません。安定して正確な周波数を発信することができる水晶デバイスが、現代の電子機器を支え、わたしたちの暮らしを便利にしているといえます。

古川エヌ・デー・ケーは、昭和51年、古川桜ノ目地区に工場を開設。国内に4箇所ある日本電波工業株式会社(NDK)のうち、車載部品に使用される水晶デバイスのマザー工場として稼働しています。

古川工場では製造される水晶デバイスは、数千種類、中には1ミリメートルに及ばない大きさのものもあります。主に、車のエンジンのコントロールやカーナビ、エアバックなど、一台の車あたり数十個から数百個使用されています。エン



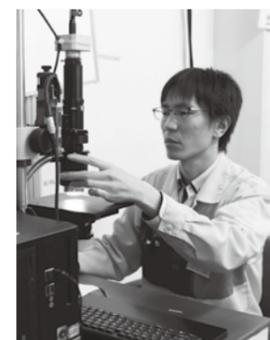
▲左から米粒、ゴマ、水晶デバイス

モノづくりへの思い

古川工場の中鉢隆太郎さんは、組立技術課に勤務しています。製品の設計書を読み解き、実際にモノづくり(製品の製造)を行う技術者に対して、製造工程などの指示を行っています。

水晶は一つ一つ周波数が異なり、それが製品の特性や品質となります。「製品を作るうえで、最終的な使用環境などを考えて作業をしています。用途に応じた特性をつかみ、モノづくりで応えたいです」と中鉢さんは話します。

中鉢さんは入社7年目から2年間、人材育成の一環として、本社がある埼玉県狭山市で、商品開発から設計、工場で量産し商品として流通させるまで、一連の流れを担当。一から考えた製品が、世の中に出回ったときに感じたモノづくりの楽しさは、今でもやりがいの源となっているそうです。「生産者には、数ある製品のの一つでも、利用者にとっては、たった一つの製品。設計書から水晶の特性をモノづくりに落とし込み、良品質な製品を届けたい」と話してくれました。



▲中鉢隆太郎さん

ジンルームの高温や大きな振動など、あらゆる環境で使用できる製品開発の追及が行われています。

会社概要

社名 古川エヌ・デー・ケー株式会社
所在地 古川桜ノ目新高谷地16-1
設立 昭和51年3月
生産品目 水晶振動子・水晶発振器など
<http://www.ndk.com/jp/>
(親会社:日本電波工業のウェブサイト)